HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	創刊号挨拶 ： 『北海道農業経済研究』発刊に際して
Author(s)	大沼, 盛男
Citation	北海道農業経済研究, 1(1), 1-1
Issue Date	1991-03-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62784
Type	journal article
File Information	KJ00009064815.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

創刊号挨拶

『北海道農業経済研究』発刊に際して

編集委員会　委員長
北海学園大学　大沼　盛男

研究生活を振り返っていつも想い出す言葉に「調査なくして発言なし」、「発言に時効はない」というのがある。前の言葉は、いうまでもなく実証科学とされる農業経済学にとって不可避の銘句であり、かつて私が道立の研究所に在籍した時に、先輩諸兄から折にふれて戒められた言葉である。後者は一見厳しい表現と受けとられるが、今を去る40年前、当時、北大文学部中国文学に居られた猪股庄八先生がよく口にした、中国の作家巴金が山川均氏の戦時中の論文を引用して、強く指弾した言葉として心に焼きついている。

北海道農業経済学会も、戦後のスタート以来、既に40年の年輪を数える。この間、先学の学会で発表された論考は、一体どれほどの数になるのだろうか、記録も定かでなく確かめるすべもないという。想い出すだけでも相当数の珠玉の論考が頭をよぎる。また、昭和40年からスタートしたシンポジウムも、今年で20回になんなんとし、時々の北海道農業への厳しい批判や、将来展望への熱い支援などを思い起こす。だが、これも印刷に付されたものは数篇にすぎないはずだ。

こうした、血のにじむ研究成果を歴史の墓標に埋め込むことは、われわれ研究者にとっても、北海道農業にとっても不幸なことに変わりはない。そのため、学会発表の記録は永く皆と共有し、後世に伝えてゆく義務があると思う。この記録作成に踏み込んで発議した前会長の三田保正酪農学園大学教授の願いもその辺にあったものと思われる。

急な指名で、その編集方針の審議役目を引き受けたが、数度の会合を開いて、各機関の幹事の方の意見に基づいて、名称、体裁、編集要領、レフリー制度のあり方などを検討した。その結果、1990年度学会の承認を得て、ここに『北海道農業経済研究』という名の北海道農業経済学会報が誕生し、お届けすることになった。

時あたかも、内外からのインパクトに揺れる北海道農業の現実を眼のあたりにし、その確かな存在感と展望が厳しく求められている時の創刊号である。また、今年は第21回国際農業経済学会議が日本で開催される折、北海道でもサブ・セッションがもたれるという機会に恵まれての刊行であることを心から喜びたいと思う。

願わくば、冒頭の寸言が、その実を発揮され、名実共に地域農業のよりよき指針の発表の場として、まさに「時効のない」多くの珠玉の論考の出現を望んでやまない。